

### 【坂町調査 1日目 9月22日】

報告者：三上災害対策委員長

チーム2人組で約12件訪問し、実際にお会いできたのは5世帯。ただ、一世帯ひと世帯、しっかりと話を伺うことができました。

参加した支援者は、全員で26名。建築士の方がオブザーバーでおられました。

また、ダイバーシティ研究所のご担当者とお会いし、情報交換を行いました。

当会 Facebook をご覧になっておられる皆様のご協力のもと、全国で支援者を募っていることもお伝えしました。

### 【坂町調査 2日目 9月23日】

報告者：山中会長

坂町の豪雨災害調査に参加の皆さま、お疲れさまでした。被災された住民の皆さまが、大変な状況にも関わらず調査にご協力くださり頭が下がる思いでした。

明日も参加の皆さま、雨の予報も出ていますので大変だと思いますが、よろしくお願ひします。

報告者：中村西支部長

山中会長、平岡副会長の連日参加をはじめ、17人の社会福祉士が参加し行われました。関西圏の社会福祉士にも出会い、心強かったです。計36人18ペアが活動しました。昨日から参加している方も多く、スムーズに進みました。『経験者と初めての人』というペアだったので、初めての参加でも、経験者のやり方をまず見て、チャレンジすることが出来る体制でした。

今日は朝夕とやや肌寒い時間もありましたが、昼間は蒸し暑く、体調管理の難しさを感じました。

報告者：吉田災害被災者支援委員会副委員長

調査2日目ですが、すでに町内会回覧板で調査のことが伝わっており、住民の皆様が待ってくださっている状態でした。お話を伺うと、住民の方から『思いのたけを聞いていただいて良かったです』とのお言葉をいただきました。皆様が話を聞いてほしいという時期に来ていることを感じた調査でした。しかし、残念ながら、時間と人手不足の関係で訪問できないご自宅もあり、申し訳なく思いました。

やはり傾聴、受容、共感の姿勢を専門とする福祉職の需要は高いと感じました。

調査内容は、被災者の現ニーズに合っていると思います。医療ニーズのみならず福祉ニーズが必要な方々もおられます。日頃の業務が活かせる調査と感じました。関西・関東からは医師も協力されていました。明日も行かせていただきます。

報告者：林会員

本日 初めて参加しました。

住民の皆様には 自治会から、調査目的や、個人情報取り扱いについても 文書でお示しがあつたようで 訪問させて頂いたお宅は 概ね 協力的でした。

調査自体は、いつもの相談業務と 重なりますし、堀さんと組めて 交代で、分担出来たので サポートの方と組むより随分 楽でした。

諸々 気づきがありましたので 参考までに列記致します。

○ダイバーシティ研究所の案内は 広島駅発 8:40 とありましたが、8:36 でした。帰りも 18:21 でした。

○庭に植物の多い家など 蚊が、多くて 一時、全身が痒くて困りました。虫除けやかゆみ止めを用意した方がいいと思います。

○お渡し書類や地図、調査票など、紙袋の中でゴチャゴチャしたので クリアファイルや、クリップなどがあると、取り出しやすいと思いました。また、クリップボードも 2人に1つ程度 貸して貰えますが、あれば役立つと思います。

○午後は 気温が上がり、ビブスを着て リュックは、暑かったので 携帯買い物袋を肩に掛けて使用しました。

○徒歩で移動は、暑いので 水分は必携です。

○印鑑！ 忘れてしまいました。

明日は 持っていきます。

10 件程度ですが、心を寄せながらお聞きするので、終了後 ドッと疲れる感じです。相談会に参加の皆様、昨日、今日、調査の皆様、お疲れ様でした。

明日も 頑張ります。

### 【坂町調査 3 日目（第 1 次調査最終日） 9 月 24 日】

報告者：河野災害被災者支援委員

第一次調査最終（9/24）の調査報告をお送りいたします。

この日は雨にも打たれ、連日ご参加された方、大変お疲れのことと思います、どうかしつかりと心身ともに休めていただければ幸いです。

小屋浦地区（600 世帯）調査の最終日ということで、漏れがないように、一軒一軒、前日までの調査でご不在であったところを中心に、訪問しました。

最終日は、専門職とサポート調査員で約 40 名（約 20 組くらい）が展開しました。ソーシャルワーカーをめざす学生さんの参加もあり、うれしく心強く思いました。

「まず町内会長さんや世話役の方から、その区画の皆様の動向を伺って回るべし」という、ソーシャルワーカーの先輩たちからの教えを忠実に守り訪問させていただいたことで、発災時にこの地域が直面したこと、詳細が伝わってきました。

なお、一週間の間隔をおいて、10/6 からは第二次調査（坂町坂地区、横浜地区）が始まり

ます。調査員申込み締め切りは、10/3（水）15時です。1,700世帯が対象で、更に社会福祉士のお力添えが必要とのことでした。

ご都合よろしい方は、ぜひ我々とともに、ソーシャルワーカーとしての貴重な学びを体験、共有いただければ幸いです。地域を守る力を高めるために。未来のために。

報告者：原本災害被災者支援委員

第1次調査お疲れさまでした。

私は3日間参加させていただきました。

今回の小屋浦は、個人で知人宅にボランティアに行った経験や相談会に出席させていただいたこともありますし、

私は安芸地区で育っており、地域の状況がある程度わかっての参加でしたので、たくさんのお話も聞かせていただきました。（私もバリバリの広島弁ですし…）

調査の内容に関しては、皆さんがご報告されておられる内容と同じように感じました。

追加させていただくとすれば、

地域の役職や地域活動をしておられる方が、他の被災者の方の支援を優先させておられ、義援金の項目をお聞きした時にも「自分の立場では申請できない」とか、他の方に回しても「えれば」といった発言がありました。

また、「今後に対しての不安や心配ごとはないが、もしかしたら、それも気付かない状況にあるのかもしれないですね」とも言われていました。

被災者が被災者を支えておられ、ご自身のことを振り返ることができない事も問題だと感じました。

被災者支援、地域の役員さんを支える支援の必要性、地域支え合いセンターが立ち上がった後も、そのセンターを支える支援が必要と感じました。

まだまだ、調査も続きますし、長い支援が必要です。

微力ではありますが、頑張っていこうと思います。

引き続きよろしくお願ひ致します。

報告者：平岡副会長

住民の方々の生の声を聞かせていただく活動に協力できたこと事態が、それぞれにとって貴重な活動だったと思います。

最終日、私と原本さんは同じグループで、ちょうど県内組と県外組がペアになりました。

私は当然にバリバリの広島弁でしたが、地理的な把握は県外の方と同レベルですので、一緒に地図を読みといていきました。

いろいろな意味でペアでの動きは安心でしたね。

まだまだこれからですね。

引き続き、よろしくお願ひします。広島のために、頑張りましょう。